

青山學院女子短期大學

紀 要 総 目 次

(自 第1輯～至 第33輯)

第1輯 昭和27年(1952)7月刊

紀要の創刊を祝して……………	院長 豊田 実
紀要の創刊に際して……………	学長 向坊 長英
平安朝以前に於ける辞書……………	川瀬 一馬
近世初期に於ける前期的資本の諸形態〔その一〕……………	保坂 栄一
——(南独フツガー家の場合)——	
The Blessed Damozel「昇天聖女」……………	向山 泰子
The Failure of Modernism in Angel Clare (A Sidelight on Hardy's "Tess of the D'Urbervilles")……………	菊地 裕
食肉の消化率に及ぼす加熱の影響……………	野村 万千代
——研究の準備——	
パンクレアチンの製法に就いて	

第2輯 昭和28年(1953)9月刊

ウエスレイ・メソジズムの本質(一)……………	向坊 長英
——歴史的基督教の綜観者・ウエスレイ——	
和泉式部日記は藤原俊成の作……………	川瀬 一馬
「清教徒」商人論……………	保坂 栄一
E. A. Poe の詩に現はれた死と愛の聯合について……………	江口 裕子

第3輯(記念号) 昭和29年(1954)11月刊

記念号発刊の辞……………	学長 向坊 長英
ワーズワースの詩『靈魂不滅の暗示』……………	豊田 実
——その詩と註解——	
ウエスレイ・メソジズムの本質(二)……………	向坊 長英
中世に於ける金言集について……………	川瀬 一馬
斎明天皇の業績……………	馬越 宮

芥川竜之介と古典	中野博雄
ギリシヤ神話とギリシヤ人の特質	江口裕子
——英文学研究の一過程として——	
ミルトンの女性観	西島正
訳詩三篇	菊地裕
Studies on the Denaturation of Proteins (I)	島崎通夫・浅野敦子
——with regard to the Iodination of Proteins——	

第4輯 昭和30年(1955)11月刊

歴史的事実の問題	小田島嘉久
——宗教的事実による歴史的事実の基礎付けへの試み——	
金春大作家系図考	川瀬一馬
——喜勝菟蓮以後——	
与謝野鉄幹の詩	中野博雄
Methylene Blue 染布の耐光堅牢度について(その一)	深谷浩・柳江智子
——染色品の耐光堅牢度に関する研究第一報——	

第5輯 昭和31年(1956)3月刊

歴史的事実の問題(其の二)	小田島嘉久
——宗教的事実により歴史的事実の基礎付けへの試み——	
新札往来と尺素往来	川瀬一馬
——古往来の研究(その一)——	
A PLAY OF PASSION	向山泰子

第6輯 昭和31年(1956)11月刊

ウエスレイ・メソジズムの本質(三)	向坊長英
第四章 ウエスレイとメソジスト教会	
歴史的事実の問題(其の三)	小田島嘉久
——宗教的事実による歴史的事実の基礎付けへの試み——	
金春家庶流系図考	川瀬一馬
ヘミングウェイと女性	松宮薫子

第7輯 昭和32年(1957)3月刊

快言抄について	川瀬一馬
——古往来の研究(その二)——	
コールリッジ「老水夫のうた」に関する一考察	石田加寿子
——一七九八年版と一八一七年版との比較——	
織布の二次元的変形	深谷浩
——直交異方性板としての取扱い——	

第 8 輯 昭和32年(1957)11月刊

中世イギリス牧羊業の展開	保坂栄一
色葉字類抄「辭字」考	青木孝
中務内侍日記の鎌倉鈔本(断簡)に就いて	川瀬一馬
バイロン作『サダナベラス』の歴史的背景	向山泰子
蛋白質変性に関する研究(二)	島崎通夫
——沃素化蛋白質の紫外部吸収に及ぼす加熱の影響について——	

第 9 輯 昭和33年(1958)3月刊

観阿弥の申楽	川瀬一馬
芥川竜之介と漱石・鷗外	中野博雄
「ハムレット」についての一考察	西島正
剪断変形による織布の挫屈(第一報)	深谷浩

第10輯(記念号) 昭和33年(1958)11月刊

第十輯記念号の発刊に際して	学長 向坊長英
静嘉堂文庫蔵 山田本古事記考	青木孝
——鈴鹿登本・猪熊本との関係——	
竹取物語が意味するもの	馬越宮
中世における辞書の二三について	川瀬一馬
——附、大永四年鈔本金句集——	
ジェイムズ・ジョイスの長篇小説における原罪の意識と母性像	町野静雄
スタインベックの一考察	松宮薫子
——彼のヒューマニズムと自然描写について——	
蛋白質変性に関する研究 III	島崎通夫
——尿素存在下における Egg Albumin の加熱変化について——	
凝視点と仮現運動	米沢俊治

第11輯 昭和34年(1959)6月刊

「桂離宮」管見	川瀬一馬
——附、佐野紹益の贈草のこと——	
古事記に見える助詞「に」の古用法について	青木孝
漱石と節・鏡花	中野博雄
エドモンドスペンサーの詩にあらわれたる愛の概念、その内容と釈解	松山正男
バイロン作『サダナベラス』の人物	向山泰子

第12輯(記念号) 昭和34年(1959)11月刊

紀要記念号発刊に際して	院長 古坂崑城
-------------	---------

紀要第十二輯の発刊に寄せて……………	学長 向 坊 長 英
学問（科学及哲学）と信仰との関係についての考察（上）……………	小田島 嘉 久
桂庵和尚家法倭点について……………	川 瀬 一 馬
源氏物語竹川の巻試論……………	馬 越 宮
——その異質性について——	
フランクリンの「航海日誌」に就ての一考察……………	黒 野 清
ヴィクトリア朝の英文学にあらわれた愛の概念……………	松 山 正 男
——「女性崇拜」とその社会的背景——	
長野県における子守教育（一）……………	林 三 平
——日本における義務教育制度の歴史的考察 一九〇〇年～一九一五年——	
知覚におけるいわゆる価値に関する実験的研究（その一）……………	米 沢 俊 治
骨化作用に於ける糖類の影響について……………	野 村 万 千 代
ビタミンの自己酸化に及ぼす蛋白質（Egg Albumin）の影響について……………	島崎通夫・加藤福子

第13輯 昭和35年（1960）7月刊

口絵 本阿弥光悦筆百人一首

大漢和辞典の完刊に際して……………	諸 橋 徹 次
本阿弥光悦の小倉山荘色紙和歌（百人一首）……………	川 瀬 一 馬
「秋」（芥川竜之介）に対する諸家の批評……………	中 野 博 雄
高校卒業生女子の計量値処理能力……………	深谷 浩・松尾登美子
——家庭生活と計量・第一報——	

第14輯（記念号） 昭和35年（1960）11月刊

荒牧教授近影 荒牧教授略歴

十周年記念号によせて……………	院長 大 木 金次郎
記念号発刊に寄せて……………	学長 幸 田 三 郎
学問（科学及哲学）と信仰との関係についての考察（下）……………	小田島 嘉 久
日本における義務教育制度の歴史的考察（二）—1900～1915年—……………	林 三 平
——学齡児童保護対策と製糸工場特別教授を中心として——	
庭訓往来の仮名抄について……………	川 瀬 一 馬
——古往来の研究（その三）——	
竜門文庫蔵 平瀬本古事記考……………	青 木 孝
——前田家本系統本の系統と価値——	
夕 顔 試 論……………	馬 越 宮
「オセロウ」について……………	西 島 正
T. S. エリオットにおける象徴主義……………	町 野 静 雄
カーライルのシェイクスピア崇敬……………	菊 地 裕

- ウィラ・キャザーについての覚書……………松 宮 薫 子
 青山学院女子学生の最近十年間における栄養摂取量の推移……………野 村 万千代
 —食品群別による—
 Trypsin の加熱変性と Sodium dodecylsulfate の影響……………島 崎 通 夫
 目分量の精度 (その一) ……………深谷 浩・松尾登美子
 —家庭生活と計量・第二報—
 R. L. スティーヴンソンの文体的特徴……………荒 牧 鉄 雄
 —初期の二篇を中心として—

第 15 輯 (記念号) 昭和36年 (1961) 11月刊

- 源氏物語の愛欲の構想について……………馬 越 宮
 —前編第二部を中心として—
 多和文庫蔵 曼珠院本古事記考……………青 木 孝
 —鈴鹿登本・山田本・輪王寺本との関係—
 古今伝授について……………川 瀬 一 馬
 —細川幽斎所伝の切紙書類を中心として—
 「玄鶴山房」の批評 (一) ……………中 野 博 雄
 歟とる詩人 (第一部) ……………青 木 範 夫
 —小諸なるスコットランド—
 狂 気 の 美 学……………松 山 正 男
 —テニスの独白詩『モード』について—
 「限界哲学」(Grenzphilosophie) 試論……………小田島 嘉 久
 馬越教授の還暦に当って……………川 瀬 一 馬
 過 ぎ 来 し 方……………馬 越 宮
 家庭における計量の実態……………深谷 浩・松尾登美子
 —家庭生活と計量・第三報—

第 16 輯 昭和37年 (1962) 11月刊

- 観阿弥の物真似論……………川 瀬 一 馬
 竜門文庫蔵 鴨本古事記考……………青 木 孝
 —延佳校本書入れの吟味とその意義—
 グレアム・グリーン論……………町 野 静 雄
 歟とる詩人 (第二部) ……………青 木 範 夫
 —都のかたをながむれば—
 Women Close to Hemingway……………松 宮 薫 子
 A Study of Lord Byron……………向 山 泰 子
 —Oriental Influences on Setting of His Early Romances—
 Dibenzoyl thiamine の定量法について……………西 田 寿 美
 目分量の精度 (第二報) ……………深谷 浩・中嶋登美子
 —家庭生活と計量・第四報—

第17輯 昭和38年(1963)11月刊

日本印刷文化史上における菱川師宣	川瀬一馬
色葉字類抄墨字門語彙の出入について	青木孝
——三巻本と十巻本の比較——	
中村ヨシ教授の御退任に際して	島崎通夫
サリンジャーの二つの短篇小説について	松宮薫子
強化米の水洗に関する研究	西田寿美
目分量の精度(第三報)	深谷浩・中嶋登美子
——家庭生活と計量・第五報——	

第18輯(記念号) 昭和39年(1964)11月刊

日本印刷文化と書体並びに料紙	川瀬一馬
吾妻鏡に見える謙譲の「令(シム)」	青木孝
改訂幼稚園教育要領の特質	林三平
教育的スロイドの成立と発展について	松崎巖
芥川竜之介の言及したカーライルの詩的精神	菊地裕
Daniel Defoe の小説二篇について	坂井晴彦
強化食の研究	西田寿美
——カルシウム存在下における製パン工程中の B_1 変化について——	
トリブシンの尿素変性についての一考察	島崎通夫
——活性の回復に及ぼす沃素の影響——	

第19輯(記念号) 昭和40年(1965)11月刊

開学十五周年記念号によせて	院長 大木金次郎
開学十五周年記念号の発刊に際して	学長 幸田三郎
学問論(覚え書き)	小田島嘉久
夢窓国師と庭園	川瀬一馬
万葉集「篇外」用字法の一考察	青木孝
——以(もって)字の用法について——	
国家体制と教育政策	林三平
——明治教育政策史覚書——	
アテナイにおける在留外人の訴訟能力	馬場恵二
北欧三国における統一学校制度について	松崎巖
Lovelace 登場	坂井晴彦
——Clarissa Harlowe の一面——	

第20輯 昭和41年(1966)11月刊

平安朝における政治思想	川瀬一馬
-------------	------

「吾妻鏡」寛永板本付訓清濁考……………	青 木 孝
——特異な読み癖を中心として——	
読書人の育った環境……………	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(+)——	
スエーデン教育に関する理解と誤解——覚え書……………	松 崎 巖
<i>Tom Jones</i> における Fielding の知的コントロールについて……………	坂 井 晴 彦
死 へ の 誘 い……………	稲 沢 秀 夫
——トルーマン・カポーティの二つの短編をめぐって——	
味と無機成分について……………	西田寿美・熊沢光子
——だし汁中の無機成分(第一報)——	
不織布の汚染性・洗浄性について(1)……………	阿部幸子・首藤晋子
自第一輯至第二十輯論文索引	

第 21 輯 昭和42年(1967)11月刊

吾妻鏡に見える「御」(ギョ)字の特殊用法……………	青 木 孝
——「たまふ」(尊敬補助動詞)に当てはまるもの——	
貴嶺問答について……………	川 瀬 一 馬
——古往来の研究(その四)——	
光 源 氏 の 変 貌……………	河内山 清 彦
——「野分」の巻を支点とした源氏物語試論——	
不知庵と「女学雑誌」……………	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(+)——	
川瀬一馬教授の紫綬褒章受章を祝して……………	幸 田 三 郎
川瀬一馬教授著作論文略目録	
Language and the Ethical in the Thought of Kierkegaard……………	小 原 信
『ハムレット』におけるキリスト教的感覚……………	菊 地 裕
——第一独白を中心として——	
英語構文力テスト作成の試み……………	伊 部 泰 子
——Chomsky の文法理論に沿って——	

第 22 輯 昭和43年(1968)11月刊

平安時代の言語作品に見出される子供のことば使いについて……………	森 野 宗 明
吾妻鏡の成立に関する一試論……………	青 木 孝
——夢想告・託宣の記事をめぐって——	
夕 霧 の 役 割……………	河内山 清 彦
——「若菜」から「幻」まで(その一)——	
大英博物館の古活字版……………	川 瀬 一 馬
民友社と不知庵……………	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(+)——	
サローヤンの描く子供の世界……………	高 島 敦 子

「教育持論」における国民教育論の動向……………	林 三 平
——明治教育政策史書(一)——	
The Ethical and the Conceptual: the Case of Kierkegaard……………	小 原 信
“The Fall” in Five Modern Novelists……………	P. J. パタソン
Lord Byron の文体……………	向 山 泰 子
侵入者と原住民……………	稲 沢 秀 夫
——イーディス・ウォートン論(一)——	
Four Quartets における思想と imagery について……………	笠 原 恵
言語心理学の一動向(1)……………	米 沢 俊 治
外国教育の影響に関する比較研究……………	松 崎 巖
——助教制の北欧諸国への移入について〈覚え書〉——	

輯 23 第 昭和44年(1969)11月刊

吾妻鏡構文上の一特色……………	青 木 孝
——述語の上に、助字「於(オ)」をつけて補足語を提示する型——	
「聚文韻略」考……………	川 瀬 一 馬
「文学一斑」と『罪と罰』……………	野 村 喬
——内田魯庵伝ノート(四)——	
作家への道……………	坂 井 晴 彦
——Samuel Richardson の <i>Familiar Letters</i> について——	
カーライルのフランス革命におけるルイ十五世の描写……………	菊 地 裕
ギリシアの影響を受けた Byron の後期の詩……………	向 山 泰 子
既成上流社会への反抗の限界について……………	稲 沢 秀 夫
——イーディス・ウォートン論(一)——	
言語問題と教育についての一比較考察……………	松 崎 巖
——フィンランドとノールウェーの場合——	
短大における保育者養成のための音楽教育……………	高 橋 好 子
——幼稚園実習との関連において——	
青山学院女子短期大学学生の栄養摂取量……………	野 村 万千代
——最近20年における推移——	

第 24 輯 (記念号) 昭和45年(1970)11月刊

開学二十周年記念号によせて……………	院長 大 木 金次郎
短期大学と学問研究……………	学長 幸 田 三 郎
親阿弥の「花伝書」論……………	川 瀬 一 馬
「若 菜」巻 の 発 端……………	河内山 清 彦
——秋山虔氏の「方法」の検証——	
謙譲の補助動詞「聞ゆ」と「奉る」……………	森 野 宗 明
——一つの謙譲表現の発達段階説批判を中心に——	
吾妻鏡に多く用いられる「云々(云々)」の訓と用法……………	青 木 孝

- マクベス劇の鳥、昆虫に関するフォーク・ロアについて……………山口 義 郎
 Byron の *Childe Harold's Pilgrimage* に就て……………向 山 泰 子
 —過渡期の作,「前篇」を中心に—
 過去への回帰……………稲 沢 秀 夫
 —イーディス・ウォートン論—
 E. M. Forster の創作態度について……………坂 井 晴 彦
 —E. M. Forster ノート—
 英米における「落花枝に帰る」の句……………町 野 静 雄
 フランクリン父子の不和についての一考察……………黒 野 清 彦
 Uno Cygnæus とフィンランドの初等教育制度の成立過程……………松 崎 巖
 青山学院女子短期大学 研究成果総覧

第25輯 昭和46年(1971)11月刊

- 慶長初年刊雲母摺古活字版徒然草……………川 瀬 一 馬
 —徒然草の最古版本—
 紫上の晩年(上)……………河内山 清 彦
 —女性哀史の発想を排す—
 字鏡集白河本(都立日比谷図書館蔵)と応永写本(前田家尊経閣文庫蔵)との関係について
 —和訓の下に散見する「正」という注記をめぐって—……………青 木 孝
 ミラボーの描写に示されたカーライルの技法……………菊 地 裕
 Vaughan's Concerns for Man……………向 山 泰 子
 「イーサン・フローム」をめぐって……………稲 沢 秀 夫
 —イーディス・ウォートン論—
 現実とファンタジー……………坂 井 晴 彦
 —E. M. Forster ノート(2)—
 「細雪」「雪国」を通して見た日本語と英語の比較研究……………高 島 敦 子
 ジクロロイソシアヌル酸系漂白剤の漂白効果……………阿 部 幸 子
 —洗剤添加の影響—
 比較教育学の課題と方法に関する一考察……………松 崎 巖
 —教育における文化的バイアスについての覚え書—
 青山学院女子短期大学 研究成果一覽

第26輯 昭和47年(1972)11月刊

- 「いほぬし」の現存最古写本について……………川 瀬 一 馬
 紫上の晩年(中)……………河内山 清 彦
 —女性哀史の発想を排す—
 内閣文庫蔵 北条本吾妻鏡訓点考……………青 木 孝
 —仮名の傍訓を中心として—
 D. G. Rossetti の譯歌……………向 山 泰 子
 —The Staff and Script の中世思想—

『真夏の夜の夢』の中に現れるフォーク・ロアについて	山口義郎
リアリズム論をめぐって	稲沢秀夫
——イーディス・ウォートン論(四)——	
『英文法汎論』のゆくえ	最上雄文
国民性と翻訳	高島教子
——英文『細雪』に表われた日本人の特性——	
言語と教育に関する比較教育学的一考察	松崎巖
——N. Hans の the Linguistic Factor 再考——	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第27輯 昭和48年(1973)11月刊

日本書誌学と国語国文学	川瀬一馬
紫上の晩年(下)	河内山清彦
——女性哀史的発想を排す——	
二人称の〈オレ〉について	森野宗明
——鎌倉時代を中心に——	
吾妻鏡に見える「是(これ)」の文章法的機能について	青木孝
玉座抄の副詞(一)	出雲朝子
翻訳家時代と『文学者となる法』	野村喬
——内田魯庵伝ノート(四)——	
セッラ・オーン・ジュエットのおかしみと自然	稲沢秀夫
「地方色文学」からの解放のために——	
ヴィトゲンシュタインにおける言語と哲学	小原信
クローディアスと末子相続制	山口義郎
The Noble Othello の復活	森泉弘次
Catharine Beecher における「女性の真の職業」のための教育	E. J. クラーク
ANCRA, GÆSTAN など	最上雄文
——廃語点描——	
夏目漱石と現代人の諸問題	高島教子
——英文「こころ」研究——	
衣服設計を目的とした本学院の幼児・児童・生徒の身体計測結果	磯谷藤枝
社会的移動と教育に関する比較教育学的一試論	松崎巖
——スウェーデンのケースより(1)——	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第28輯 昭和49年(1974)11月刊

吾妻鏡に見える「處(処)・所(所)」両字の使い分けについて	青木孝
——接統助詞的に用いられた「處」字を中心として——	
細川幽斎年譜稿(一)	林達也

玉塵抄の副詞(二)	出雲朝子
——擬声擬態語の語形について——	
曾丹集中の「三百六十首」の成立時期について	北村杏子
紫式部集の成立と流布(三)	河内山清彦
——第二類古本系統の先行を論じて紫式部日記の首欠と日記歌の成立に及ぶ——	
エレン・グラスゴウ論	稲沢秀夫
A Study in Intellectual Liberation	E. J. クラーク
Macbeth 試論	森泉弘次
——〈父と子〉の悲劇として(1)——	
Byron の戯曲と Goethe の <i>Faust</i> と	向山泰子
——I. <i>Manfred</i> ——	
A Room with a View における若干の表現形式の特徴について	坂井晴彦
——E. M. Forster ノート(8)——	
認識と行為——『死の床に横たわりて』論	佐藤澄子
夏目漱石と現代の諸問題(2)	高島敦子
——英文『道草』研究——	
非水系洗浄液中における汚染現象についての一考察	阿部幸子
——基質への水及び界面活性剤の吸着の影響——	
海藻成分の研究(昆布のヨウ素)	西田寿美
児童福祉施設の福祉機能について	斎藤謙
——保育所保育をめぐる問題の検討(その1)——	
エリッヒ・フロムの愛の概念に関する若干の考察	鈴木有郷

第20輯 昭和50年(1975)11月刊

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(上)	青木孝
——語彙・用字の分類とその特色——	
細川幽斎年譜稿(二)	林達也
玉塵抄の国会図書館蔵本と叡山文庫蔵本について	出雲朝子
古今集の誹諧歌について	北村杏子
紫式部日記の形成	河内山清彦
——宇津保物語の誕生記事との関係を中心に——	
『ジョンソン』とその周辺	野村喬
——内田魯庵伝ノート(4)——	
A Defence of Thomas Hardy against Lina Wright Berle's Criticism: With Special Reference to <i>Tess of the D'Urbervilles</i>	菊地裕
Macbeth 試論	森泉弘次
——《父と子》の悲劇として(2)——	
Byron の戯曲と Goethe の <i>Faust</i> と	向山泰子
——I. <i>Cain</i> と <i>The Deformed Transformed</i> と——	
想像力と神話	新美澄子
——フォークナーの『アブサロム、アブサロム』の技法について——	

夏目漱石における東と西……………	高 島 敦 子
——英文「草枕」研究——	
シェイクスピアと人間嫌い……………	山 口 義 郎
青山学院女子短大生の栄養食品実態調査……………	西 田 寿 美
「ラインホルド・ニーパーにおける愛と正義の関係」……………	鈴 木 有 郷
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第30輯 昭和51年(1976)11月刊

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(中)……………	青 木 孝
——副言(副詞・接続詞・連体詞)について——	
細川幽斎年譜稿(三)……………	林 達 也
古今集の俳諧歌について一承前……………	北 村 杏 子
朱雀院五十賀と密通事件をめぐる……………	河内山 清 彦
——宇津保物語の影響、「六条院の崩壊」の問題など——	
父の死とその後始末……………	野 橋 喬
——内田魯庵伝ノート(4)——	
テス・ダービフィールドの素朴な信仰……………	菊 地 裕
——キリスト教と異教の混合——	
「リチャード三世」における犠牲者達についての一考察……………	森 泉 弘 次
バーナード・マラマッドの喜劇性……………	新 美 澄 子
——近代リアリズムの方法としての彼の個性について——	
セルロース・ポリアミド粉末表面のぬれと界面活性剤の吸着について……………	阿 部 幸 子
明治期における保育者養成……………	阿 部 智 江
シュマルカルデン同盟の成立について……………	石 引 正 志
都市における成人講座受講者の学習行動に関する一考察……………	岩崎三郎・林三平・幸田三郎
——新宿区における事例調査——	
“Reinhold Niebuhr and His Modern Critics”……………	Yugo Suzuki
W. B. イェイツにおける「愛」と「死」……………	秋 山 照 男
——The Death of Cuchlain 覚書(I)——	
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第31輯 昭和52年(1977)11月刊

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(下)の(一)……………	青 木 孝
——辞(助詞・助動詞・接頭語・接尾語)のうち助詞——	
源氏物語論のために明晰・自立・真実を……………	河内山 清 彦
——藤井貞和氏の妄言に駁す——	
「リア王」における悪の問題(一)……………	森 泉 弘 次
Lord Byron の <i>The Prisoner of Chillon</i> の構成……………	向 山 泰 子
ヘミングウェイ覚え書き……………	新 美 澄 子

音と意味	山口義郎
領邦君主と宗教改革	石引正志
——ヘッセン地方伯フィリップの場合——	
W. B. イェイツにおける「愛」と「死」	秋山照男
—— <i>The Death of Cuchulain</i> 覚書(一)——	
専門図書館の存立基盤	前國主計
——組織体における情報需要の階層別考察——	
日本におけるキリスト教と社会主義	鈴木有郷
——木下尚江の場合(一)——	

第32輯 昭和53年(1978)11月刊

「庭訓往来(ていきんおうらい)」の語法(下)の(二)止	青木孝
——助動詞と接頭語・接尾語——	
紫式部日記成立論覚書	河内山清彦
——断片的記事竄入説・非首欠説批判——	
仲文集の一考察	北村杏子
——枕草子との関わりをめぐる——	
民友社との別れ	野村喬
——内田魯庵伝ノート IV——	
内村鑑三における文体と論理	小原信
ブレイクの神	秋山照男
—— <i>Thy Fly</i> についての一考察——	
The Sensual Attractiveness and Barbaric Sincerity of Alec d'Urberville Much Depreciated	Y. Kikuchi
ユダヤの百合	新美澄子
——Bernard Malamud のユニークな世界——	
女性語と女性解放	高島敦子
マイクロ波加熱による食品の硬化現象について	肥後温子・島崎通夫
——パンの硬化と結合水の変化——	
マルティン・ブツァーと宗教寛容の問題	石引正志
日本におけるキリスト教と社会主義	鈴木有郷
——木下尚江の場合(二)——	
青山学院女子短期大学における体力診断テストの結果に関する一考察(その一)	多和はる・板垣美恵子
リア王における悪の問題(二)	森泉弘次
青山学院女子短期大学 研究成果一覧	

第33輯 昭和54年(1979)11月刊

「明衡往来(めいこうおうらい)」に見える「蒙求(もうぎゅう)」関係語彙について	青木孝
---	-----

鎌倉時代における文語ア・ハ・ワ行下二段活用動詞とヤ行下二段活用動詞の

- 活用の混乱について.....出 雲 朝 子
「夕霧」巻の紫上の述懐をめぐって河内山 清 彦
——源氏物語・紫式部日記の女性観との関連——
藤原実方雑考北 村 杏 子
“God is Love” から “God si Love” へ坂 井 晴 彦
——E. M. Forster ノート (4)——
《家族的》人間関係について高 島 敦 子
——英文『行人』研究——
マルティン・ブツァーと農民戦争.....石 引 正 志
宗教社会学とドイツ精神史 (1)柳 父 園 近
——その側面——

青山学院女子短期大学 研究成果一覧